

ちょっと待って！そのニュースは本当に正しいの？ ～情報の真偽を見抜くためには～

「フェイクニュース（fake news）」とは？

虚偽（fake）の情報でつくられたニュースのことで、インターネット上で発信・拡散される偽の記事を指すことが多いです。フェイクニュースは、読んだ人に「そうに違いない」、「そうかもしれない」と思わせるような内容で人々の注目を集め、真実だと思い込んだ人が、SNS上に拡散することで、あっという間に世界中に広がる傾向があります。

2年前のアメリカ大統領選挙では、「ローマ法王が△△候補を支持」などとSNSを通して、多くのフェイクニュースが拡散され、選挙や投票行動に大きな影響を与えたと世界的に大きな問題となりました。



日本でも、平成28年に次のような事件が発生しました。



平成28年4月、熊本地震の発生直後に、「動物園のライオンが脱走した」という内容を画像と共にSNS（短文投稿サイト）上に投稿した男が、偽計業務妨害容疑で逮捕された。

この投稿は1時間で2万件以上「リツイート（転載）」されて、動物園には問い合わせの電話が相次いだ。

また、先日発生した大阪での地震の際にも、「シマウマが脱走した」や「電車が脱線した」などの情報がSNS上に拡散し、大阪府警などが偽情報に惑わされないよう注意を呼び掛けていました。

これらの問題には、みなさんに注意してほしい2つの大事なポイントがあります。

1 虚偽の情報や不確かな情報を、軽い気持ちでインターネット上に投稿しない

上の熊本の事件でも、逮捕された男は「悪ふざけで投稿した」と供述しています。みんなを驚かそうと軽い気持ちでSNSなどインターネット上に投稿した内容は、瞬時に、地球規模で拡散をします。その情報が広がることで、取り返しのできない大きな影響を及ぼし、場合によっては犯罪者として逮捕されるかもしれないことを心に留めておくべきです。

2 情報をそのまま信じずに、それが本当なのかどうか、必ず考える

情報の真偽を見抜く力は、インターネットに限らず、情報を活用する上で大事な力になります。一度立ち止まって、「その情報に根拠があるのか」、「情報源は何か」、「ひょっとしたらウソではないか」と批判的に考えることを習慣づけましょう。

誤った情報を拡散することは、だまされた被害者であった自分が、他人をだます加害者になってしまうということです。インターネット上の他のサイト、本や新聞などの別のメディアなど、複数の情報源からその真偽を確かめましょう。



<参考>・NHK クローズアップ現代「フェイクニュース特集 あなたは被害者？加害者？」
<http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3930/index.html>

本メールに関して御質問、お問い合わせがある場合は下記まで御連絡ください。

【担当】福井県安全環境部県民安全課 角田

☎:0776-20-0745（直通） メール：h-kakuda-um@pref.fukui.lg.jp